



4. 学習を終えて～3年間の学習を振り返ろう～



ガイダンス時の手紙(p9)を読み返そう

①ガイダンス時の自分と比べて、成長したと思うこと

【自立面】

(例) 料理や洗濯、掃除などをできる限り自分でやるようになった。
お小遣いの使い方や貯め方を考えて、自分で計画できるようになった。
自分の意見や気持ちを、相手に伝えるようになった。

【共生面】

(例) 友達と協力して活動に取り組めるようになった。
家で家族と協力して料理や掃除をするようになった
地域の行事や清掃活動に、積極的に参加するようになった。

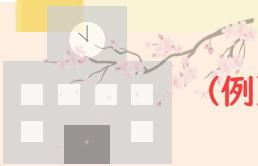


3年間の学びの集大成として、自分自身の成長を実感させる。



自立・共生の力がどのように身についているかを可視化し、
卒業後の生活に向けて意識を高める。

②家庭科での学びを活かして、これからの生活で大切にしたいこと



(例) 制服や服の購入時に値段や品質を比べて、賢く選びたい。
賞味期限や食材の保存方法に気をつけ、食品ロスをなくしたい。
お小遣いの一部を貯金して、将来のためにお金を管理したい。
地域の掃除やイベントに参加して、周りの人と協力したい。



家庭科での学びを整理し、今後の生活にどのように活かすのかを考える時間とする。



中学校家庭科最後の授業であるため、生徒がこれまでの学習を振り返り、
今後の生活にどう生かすかを考えることを重視する。



家庭科での学びが今後の自分の生活に役立つことを意識させ、
自立した生活や、より豊かな暮らしへの関心を高めるようにする。



資料 「チョクク家 父・母の給与明細」 <指導書用>



ねらい

本資料は、家庭の収入の主な柱である「給与」の仕組みを具体的に理解させることを目的としている。給与明細を通して、給与は記載されている金額のすべてをそのまま受け取れるものではなく、税金や社会保険料などが差し引かれた上で支給されていることを理解させる。あわせて、差引支給額が家庭の収支における「収入」となることを確認し、家計管理の学習へとつなげる。

授業での扱い方

父・母それぞれの給与明細を提示し、給与として支払われる金額のうち、最終的に本人に支給される金額がどれに当たるのかを確認させる。次に、総支給額と差引支給額の差に着目させ、給与から差し引かれている項目があることに気づかせる。これらを通して、給与はすべて自由に使えるお金ではなく、社会の仕組みに基づき一定額が控除された上で支給されていることを理解させる。

給与明細の基本的な見方

- ・ **総支給額**⇒基本給や各種手当を合計した、差し引き前の給与の総額である。
- ・ **控除**⇒法律や制度に基づき、税金や社会保険料などとして給与から差し引かれる金額である。
- ・ **差引支給額**⇒総支給額から控除額を差し引いた、実際に支給される金額であり、家庭の収支では「収入」として扱う。

控除項目の説明

- ・ **健康保険料，介護保険料，厚生年金料，雇用保険料＝社会保険料**
⇒給与水準に応じて定められており、給与から差し引かれる。介護保険は40歳から差し引かれる。
- ・ **所得税，住民税＝給与から差し引かれる税金**
⇒所得税はその月の支給額に応じた金額、住民税は前年の収入に基づいて算出された税額である。

指導上の留意点

- ・ 本資料は学習用のモデルであり、実在の家庭や実際の給与額を示すものではないことを確認する。
- ・ 給与額の多少を比較することを目的とせず、給与の仕組みや差引支給額の意味を理解させることに重点を置く。
- ・ 控除は「差し引かれた金額」ではなく、社会や将来の生活を支える制度に基づく負担であることを補足する。